

DENSO
Crafting the Core

会社案内





ZERO

「環境」と「安心」の取り組みによって、社会から共感され、すべての人に笑顔広がる未来を届けます。



究極のゼロの実現、そしてモビリティ分野だけでなく
社会全体へ貢献すべく、新たな価値の創造に挑戦します。

「環境」「安心」領域での価値創造を通じて、笑顔あふれる未来を届けたい。

この使命のもと、「環境」領域では「カーボンニュートラルな社会」の実現に向け、工場での生産活動だけでなくお届けした製品まで踏み込んで、CO₂の排出と吸収でプラスマイナス「ゼロ」を、「安心」領域では「交通事故死亡者ゼロ」の世界の実現を、いずれの領域も究極の「ゼロ」を目指します。

また、環境問題や資源不足など地球規模の課題が一層深刻化する中、循環型社会の実現に向け「モビリティ」から「社会全体」への貢献に広げて価値を届けていくことが私たちの新たな使命であり、モビリティの価値向上に加え、モビリティ以外の領域での新たな事業開拓にも果敢に挑戦していきます。

これからの社会は、クルマがさらに高度化し、クルマと人、クルマと社会が多様な形でつながっていくため、これまで以上に多くの技術を組み合わせ、スピード感を持って、新たな製品やサービスを生み出していく必要があります。私たちは、変化の時代を力強く生き抜いていく会社へと進化し、多くの皆様と共に新たな価値を創造し続け、「循環」の輪をモビリティから社会全体に広がっていきます。

代表取締役社長CEO 林新之助

DENSO at a Glance

デンソー早わかり

Past

これまでの変遷

経営基盤/経営方針

1949年の創業以来、品質のデンソーとして経営基盤を固めつつ、長期方針を羅針盤に経営の舵取りを実施

1949



トヨタ自動車工業から分離独立し、日本電装株式会社を設立

1953



ドイツ・ロバートボッシュ社と電装品に関する技術提携契約を締結

世界に通用する製品づくりを目指し、社外からも積極的に技術を学ぶ。

1956

デンソーの源流となる社是の制定
創業の精神を将来にわたり守り育てるために制定。



1961

品質管理の
最高権威であるデミング賞を受賞

受賞に向けた社員全員参加での取り組みが、今日も続く「品質第一」の思想や風土の礎となる。

研究開発/モノづくり

常に将来を見据えて研究開発に努めるとともに、モノづくりの力を磨き続けることで、不可能を可能に

1954



技能者養成所を開設

「モノづくりはヒトづくり」「技術と技能の両輪」の思想は、今日にも受け継がれる。

1968



IC研究室を開設

将来的に自動車部品が電子制御化されることを見越し、早くから社内でICの研究開発を行う。電子関連製品は、現在のデンソーの主力製品の一つ。

1984



額田テストコースを開設

部品メーカーとしては早くからテストコースを開設。カーメーカーに匹敵する評価施設は、お客様の期待を超えた製品性能や品質保証のため。

グローバル展開

お客様のニーズに応えるため早くから世界各国に進出し、生産拠点だけでなく、R&D拠点も多くの国で展開

1966



米国にシカゴ営業所、ロサンゼルス出張所を開設

海外初の営業所の設立は、貿易の自由化など、世界の潮流を見越しての対応。

1972



初の海外生産会社であるニッポンデンソー・オーストラリア、ニッポンデンソー・タイランドを設立

お客様のニーズに応えるため、世界各地のお客様の近くでの生産を開始。

Past

これまでの変遷

経営基盤/経営方針

1996

社名を株式会社デンソーに変更

真のグローバル企業を目指し、社名から「日本」を取り、「株式会社デンソー」に変更。

2017

デンソーグループ2030年長期方針を策定

「地球に、社会に、すべての人に、笑顔広がる未来を届けたい。」をスローガンとして掲げる。

研究開発/モノづくり

1991

基礎研究所を設立

5～20年先を見据えた将来技術の研究開発を実施。現在の研究分野は、半導体材料からオイル産生微細藻類に至るまで、多岐に渡る。

2015

グローバルな研究開発体制の構築

デンソーは世界中（日本、アメリカ、ドイツ、中国、タイ、インド、ブラジル）にあるテクニカルセンターを拠点に、社内外の枠を超え、カーメーカー、研究機関、大学等と連携し、最先端の技術、製品の開発を推進。

グローバル展開

2004

デンソースピリット

1949年の創業以来培ってきた価値観や信念を明文化し、世界中のデンソー社員で共有したもの。
クルマ社会や人々に貢献する原動力や競争力となる、先進、信頼、総智・総力の3つからなる行動指針。

2016

グローバル共通人事制度

本社および海外グループ会社を含めた幹部層約2,300人を対象に、グローバル共通人事制度を導入。
個人の発揮能力にフォーカスした世界共通の等級を導入。世界中の人材が本社を含めたグローバル全体の中でキャリアを描くことを可能に。

Present

数字で見るデンソー

全従業員数

15.8万人

連結売上収益

7.2兆円

世界初製品

180以上

特許保有件数

3.8万件

技能五輪国際大会
総獲得メダル数

81個

グローバル拠点

35の国と地域

海外売上比率

59%

2025年3月31日現在

Future

未来への思い

環境・安心分野で究極の「ゼロ」を目指す

CO₂±ゼロ

交通事故死亡者ゼロ

環境

Green

2035年度カーボンニュートラルを目指す

デンソーはこれまでの環境への取り組みをさらに進め、2035年度という近い未来にモノづくりにおけるカーボンニュートラルの実現を目指します。そのために、グリーンイノベーション基金*なども活用しながら、「モノづくり」「モビリティ製品」「エネルギー利用」の3つの領域で取り組みを進めています。

*グリーンイノベーション基金: グリーン成長戦略において実行計画を策定している重点分野で、政策効果が大きくかつ社会実装までを見据えて長期間の継続支援が必要な領域に対する NEDO(国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構) による支援施策

モノづくり

モノづくりにおける完全なカーボンニュートラルを達成

太陽光などの再生可能エネルギーの利用促進に加え、製造工程を効率化することで、CO₂排出量を減少させていきます。さらには、再生可能エネルギーを使って生成したグリーン水素の利活用によって、生産の過程で発生するCO₂排出量を削減することで、モノづくりにおけるクレジットなしでの完全なカーボンニュートラルを目指します。



モビリティ製品

クルマの電動化に貢献し、CO₂を可能な限り削減

電動化製品の進化により、HEV・BEV・FCEVなどの電動車普及に貢献します。また、自動車業界で培った電動化技術を空のモビリティにも応用し、あらゆる電動モビリティを通じてCO₂排出量を大きく減少させます。



エネルギー利用

再エネを有効活用する技術を開発・普及し、エネルギー循環社会を実現

場所や時間の制約なくエネルギーを効率よく「ためる」「もどす」技術確立し世の中に広く普及させることで、エネルギー循環社会の実現に貢献します。



カーボンニュートラルの実現に向けて、CO₂を減らしていく脱炭素に加え、排出されるCO₂を回収し再利用する「カーボンリサイクル」への注目が集まっています。デンソーはこのCO₂回収を「どこでも」「効率よく」実現するために、小型で高効率なCO₂回収システムの開発と実装を進めています。

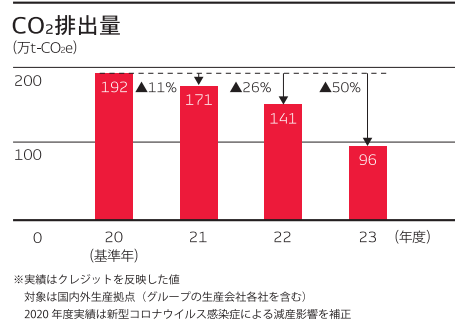
デンソーとサプライヤーとの協働により カーボンニュートラルを実現

経済産業省主催の「パートナーシップ構築シンポジウム」において、デンソー調達グループが推進するカーボンニュートラルに関する中小サプライヤー支援が評価され、パートナーシップ構築大賞「テーマ特別賞（GX表彰）」を自動車業界で初めて受賞しました。これからもサプライヤー様との連携を通じ、サプライチェーン全体のカーボンニュートラル実現を目指すとともに、カーボンニュートラルがサプライチェーンの付加価値として認められるよう社会への働きかけを進めていきます。



モノづくりにおける完全なカーボンニュートラルを達成

従来の強みである省エネ活動を徹底的にやり切り、再生可能エネルギーの導入やクレジットの活用などにより、CO₂排出量を2020年度比で50%削減し、2023年度目標-50%を達成しました。なお、2022年度までに安城製作所、西尾製作所、広瀬製作所、株式会社デンソー福島、欧州全域で、2023年度には高棚製作所、大安製作所、幸田製作所、善明製作所、湖西製作所でそれぞれカーボンニュートラルを達成しています。



再生可能エネルギーを有効活用する技術を開発・ 普及し、エネルギー循環社会を実現

場所や時間の制約なく、エネルギーを高効率に利活用する技術確立し、世の中に広く普及させることで、エネルギー循環社会の実現に貢献します。例えば、クルマで培ってきた熱マネジメント技術と材料技術を応用して、水素から電気をつくるSOFCと、電気から水素をつくるSOECの実証実験を開始しました。今後様々な実証を通じて、グリーン水素エネルギーをムダなく使う「効率性」と、システムを安全に長期間使用できる「耐久性」を探求し、環境と経済合理性の両立を目指した開発に挑戦していきます。



安心

Peace of Mind

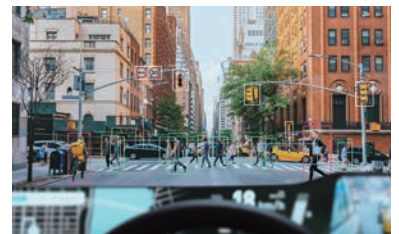
社会に「安心」を提供するリーディングカンパニーを目指す

人々の幸せに貢献する企業を目指すデンソーにとって、事業活動を通じた社会課題の解決により、社会に「安心」を提供することは使命でもあります。社会に「安心」を提供するリーディングカンパニーとなるべく、デンソーが貢献する3つの柱を以下の通り定義しました。

交通事故 死亡者ゼロ

「深み」と「広がり」の取り組みを通じ、
安全製品を普及させ、安心して自由な移動を実現

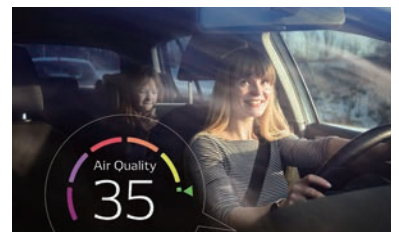
「交通事故死亡者ゼロ」を目指し、技術の先端をひた走る「深み」と、多くのクルマに安全製品を普及させる「広がり」の二方向で取り組みを進めます。「深み」では、安全製品をさらに進化させ、より多くの先端モビリティへの搭載を実現。「広がり」では、価格面でも魅力のある安全製品の実現と後付け製品の拡充を進めることで、より広く安全製品の普及を推進します。



快適空間

空間に対する技術を高め、心安らぐ快適な空間を創出

自動運転の進展に伴い、クルマはただの移動手段としてだけでなく「移動できるプライベート空間」としてのニーズが高まっています。デンソーは、様々な車室内環境をより快適に進化させることで、心安らぐ空間をつくります。



働く人の 支援

モビリティ領域で培った技術を活かし、働く人を支援し、
人の可能性を広げる社会を構築

労働人口減少は、多くの業界にとって大きな社会課題の一つです。デンソーは自動化やICTなど、モビリティ領域で培った技術を活用することで、働く人を支援し、誰もが安心して新たな価値創出にチャレンジできる社会を実現します。

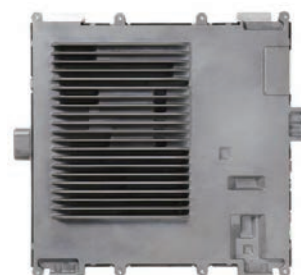


安全製品の開発や、快適な空間を実現するサービスの提供、さらに車載領域で培った技術の活用に取り組んでいます。

2035年度に事故カバールール率100%のシステムを開発

デンソーは、交通事故死亡者ゼロの実現に向けて、ADAS システムが対応できる交通事故シーンを拡大することと、ADAS システムを広く普及させることが重要であると考えています。対応シーンの拡大に対しては、ADAS 機能、HMI、インフラ連携それぞれの強みを融合した先進技術の開発により、2035年度に事故カバールール率100%のシステムを目指しています。普及に対しては、地域やお客様ごとの多様なニーズを捉え、ニーズに対応した最適なセンサーとシステムパッケージのラインナップを充実させていきます。

また、その実現に向けて、大量のデータを高速処理できる大規模 ECU の開発にも取り組んでいます。デンソーは、今後も先進技術と充実したラインナップで、誰もが安心して自由に移動できる社会の実現を目指します。



冷却効果と環境負荷低減を両立する トラック用停車時クーラー「Everycool」を発売

夏の暑い時期のドライバーの労働環境改善と、燃料消費低減による環境負荷低減・効率的なエネルギー利用を両立する、トラック向け停車時用冷房装置を発売しました。



ドライバー数やCO₂ 排出量の低減に貢献、 幹線中継輸送サービスの実証実験

物流企業などと合同で、物流業界における人手不足や長時間労働の解決、環境負荷低減に貢献する有効な手段の一つである幹線中継輸送サービスの実証実験を開始しました。



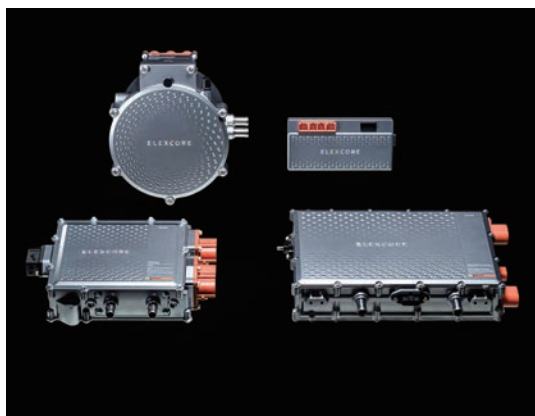
事業の概要

事業の概要

デンソーでは、モビリティを中心とした領域において7つの事業を展開しています。将来社会に新しい価値を生み出していくための事業ポートフォリオを構築し、それぞれの事業が共鳴し合いながら創出価値最大化に向けて取り組んでいます。また、変化の激しい事業環境においても社会のニーズを捉えた製品・システムを提供し、持続的成長を実現するための重点戦略として、事業ポートフォリオの入れ替えを進めています。

	セグメント	売上収益（比率）
車 載 事 業	エレクトリフィケーション システム	1兆3,544億円 (18.9%)
	パワートレインシステム	1兆4,386億円 (20.1%)
	サーマルシステム	1兆7,285億円 (24.1%)
	モビリティエレクトロニクス	2兆173億円 (28.2%)
	先進デバイス	3,888億円 (5.4%)
非 車 載 事 業	FA・社会ソリューション	1,205億円 (1.7%)
	フードバリューチェーン	

エレクトリフィケーションシステム



電動化システムと電動化製品の普及で世界のカーボンニュートラル潮流をリードし、安心・安全で利便性の高い移動の提供に貢献します。

インバーターやモータジェネレーターをはじめとする電動化製品の小型化・高性能化・高品質化に加え、電気／熱エネルギーを効率よく制御するエネルギーマネジメント技術、電池を最適かつ安全に使いきる電源システム技術などのシステム技術の拡充により、あらゆるモビリティの性能向上を実現し続け、カーボンニュートラル社会の実現と安心・安全かつ利便性の高い移動の提供に貢献していきます。

事業の強み1 技術開発力・品揃え

システムから製品や半導体まで、各層をすべて手の内化し、技術ノウハウを各層間で相互共有することにより各層の競争力をさらに強化する、垂直統合を基本戦略としています。各層の技術力は、25年以上の電動化事業経験により積み上げられた競争力を有しています。今後は垂直統合をエネルギーマネジメント領域に拡大し、さらに競争力を創出し、お客様の期待に応える品揃えを提供します。

事業の強み2 グローバル生産供給体制

電動化製品の需要拡大に応えるため、世界19カ国に約50拠点を構え、世界中のお客様へ製品を供給しています。グローバルマザーである安城製作所内に設立した電動開発センターでは、併設する電動化工場の量産ラインでCO₂循環プラントやCO₂排出を抑制する省エネ環境ラインの実証を進めるなど、次世代の製造技術を迅速かつ効率的に開発・導入しています。

事業の強み3 車載信頼性

車両故障低減のため、品質の重要性はますます高まっています。車両の走る・曲がる・止まる・快適機能を最適に統合するシステムを実現しつつ、品質が管理されていることが重要です。デンソーには、祖業である電装品事業や電動化事業の経験から築いてきた車載システム、製品、半導体の信頼性に対する知見があります。製品に対するストレスと製品のストレングスをシステム全体で管理することで、最適な品質を提供しています。



パワートレインシステム



クルマ本来の走るよこびと環境性能の両立。
その背反する課題へのソリューションを
提供します。

地球環境への負荷を最小限にとどめ、燃料の多様化や年々強化される規制への対応をサポートし、高品質なシステムとコンポーネントを供給するとともに、新たな価値創造・提供にも努め、社会に貢献します。

事業の強み1 パワートレインの進化を牽引してきた研究開発力

クルマの環境性能の追求を通じ、ディーゼル内燃機関用の燃料噴射製品「コモンレールシステム」などの様々な世界初製品を量産化してきました。現有のコア技術と開発力を、水素やバイオ燃料活用といったカーボンニュートラルなパワートレインの選択肢拡大にも応用していきます。

事業の強み2 クルマの安心・安全な走行を支える信頼性の高いモノづくり技術

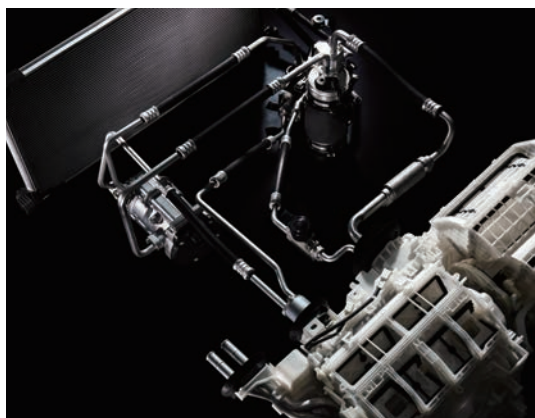
クルマの重要機能である“走行”を担うため、ミクロン単位での高難度かつ精密な加工、高速組付技術や、材料調製から成形・焼成まで一貫した信頼性の高いモノづくり技術を磨き上げてきました。長年培ってきた技能やモノづくりのノウハウと、ロボット・AIなどの最新技術やデジタルを融合し、さらなる技術の深化を図ります。

事業の強み3 パワートレインに精通する人財が有機的に連携できる組織力

過酷な使用環境に耐え、厳しい環境規制をクリアできるクルマをカーメーカーと共に作り出すため、多岐にわたる要素技術・技能それぞれのプロフェッショナルが車両視点で連携し、システムからコンポーネントまで通して専門性を発揮できる高い組織力を備えています。



サーマルシステム



エネルギーマネジメント技術と
クリーンエネルギーによるモノづくり普及で、
地球もヒトも心地良い社会を実現します。

地球温暖化に歯止めをかけるため、温室効果ガス抑制は喫緊の課題です。この社会課題を解決すべく、クルマの熱マネジメントで培った環境技術を中心に据え、既存の枠を超えた社内外のパートナーとの共創により、新たなクルマ・社会モデルを構築・発信します。さらに、これまで築き上げてきた地域に根付いたグローバルサプライチェーンの強みも活かし環境対応製品を普及させることで、世界のカーボンニュートラル社会の早期実現に努めていきます。

事業の強み1 世界一を誇る数々の環境技術

2,400 件にも上る業界一の環境技術特許と、数々の世界初製品・世界シェア No.1 製品に裏付けられた熱マネジメント技術をさらに進化させることで、熱からエネルギーへ、クルマから社会へ、デンソーの技術貢献領域を広げていきます。

事業の強み2 組織の枠を超えた共創

トヨタ自動車との共創で実現した株式会社デンソー福島における水素の地産地消による工場カーボンニュートラル化のように、事業グループの枠を超えたデンソーの技術力結集、世界中のお客様や新たなパートナーとの協業で、新しいビジネスモデルを発信し続けていきます。

事業の強み3 グローバルサプライチェーン

国・地域により多様化するお客様のニーズを、全世界に50カ所以上ある拠点で正しく捉え、地域に根付いたサプライチェーンを通じ競争力のある製品を迅速に供給することで、各国の環境課題の解消に貢献していきます。



モビリティエレクトロニクス



「すべての人が安心して快適に移動できる社会（Quality of Mobilityの向上）」を実現します。

CASEの進展によって引き起こされる社会の進化と変化およびユーザーニーズを的確に捉え、エレクトロニクス技術（センサー、半導体、ECU）とソフトウェア技術で時代に適応した製品を投入し続けることによって、カーボンニュートラルと交通事故死亡者ゼロの実現に貢献していきます。

事業の強み1 クルマと人と社会をつなぐ大規模統合システム実現力

SDVやCASEなどクルマの智能化とともに、電子システムへのニーズは、パワートレイン、ボデー、シャーシ、コックピット、ADASなどの単一領域の制御システムに加え、それらを協調させた大規模統合システムへと進化しています。また、クルマとクルマの外とをつなぐシステムのニーズも高まっています。デンソーはこれらすべてのシステムを手掛けてきた幅広い技術力とクルマへの実装力で魅力ある製品を実現します。

事業の強み2 車載製品で培ってきた信頼性と先進性を備えた製品開発力

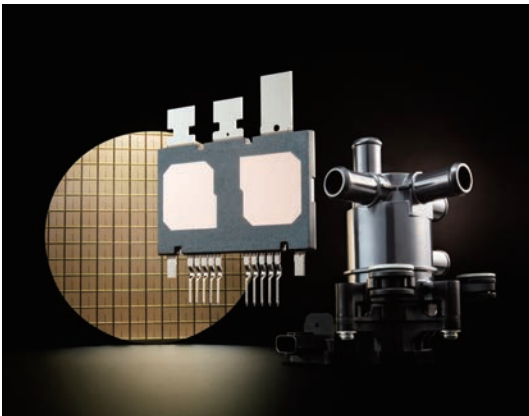
車載製品は厳しい環境と動作制約のもとでの高い信頼性と性能の両立が要求されます。クルマの電子化が始まった当初から長年にわたって車載電子製品の事業活動が続けてきた当社には、そこで積み上げたクルマの知見があります。その知見を強みとして、車載製品ならではの信頼性、性能と最新のエレクトロニクス、ソフトウェア技術を融合させ、競争力ある製品を開発します。

事業の強み3 グローバルネットワーク

SDV時代の大規模システムをいち早く実現するには、パートナーとの連携が重要です。デンソーには、世界中のカーメーカー、半導体メーカー、ソフトウェアベンダーと共に数々の難関を乗り越え築き上げてきた人的・知的資本、グローバル生産体制があります。それらを強みとして、SDV関連技術を磨き、様々なソリューションをお客様に提供し続けることで、環境にやさしく、安心・安全なモビリティ社会の実現に貢献します。



先進デバイス



モビリティ領域にとどまらず、
社会とお客様の抱える課題を解決する事業を
創出・拡大していきます。

技術軸ではなく、社会とお客様への貢献を軸に再編された組織として、センシング・アクチュエーションの連携と、垂直統合の強みを活かした半導体によるシステム価値向上を推進します。これらを通して、新たなデバイス・システムの創出や電動化市場の拡大に対するQCD（品質・コスト・納期）全方位での信頼獲得を目指します。

事業の強み1 センシング&アクチュエーションによる新たな価値創出

当事業グループ内で半導体（脳）、センシング（目）に加え、アクチュエーション（手・足）のコア技術を融合し、新しいデバイスやシステムを柔軟な発想で創出することで、お客様の“あったら良いな”を実現する課題解決型の開発を可能にします。

事業の強み2 内製・社外生産委託・パートナー連携による強固な半導体供給基盤

電動化市場の拡大に向けて、世界初技術を搭載したキーデバイスとなるSiおよびSiCパワー半導体を内製するだけでなく、供給基盤とコスト競争力の強化に必要なサプライチェーン構築をリードしています。

事業の強み3 新領域製品の変種変量に耐えうる高い生産技術とそれを支える現場力

人財育成や若手抜擢を通じて競争力ある新領域製品の応用範囲を広げます。同時に、新製品ゆえに起きうる数量変動に対して、ラインの形・場所を変えて常に最適編成・最適配置できる生産システムを構築すべく、デジタルツイン・協働ロボットを活用します。



F A・社会ソリューション



モノづくり産業の生産性向上と 社会生活の質向上に貢献します。

環境面における「カーボンニュートラルなモノづくり」、安心面における「人の可能性を広げる社会構築」を事業の理念に掲げ、お客様の困りごとに真摯に向き合い、お客様にとってのベストな解決策となるソリューションを提供することで、産業・社会の発展に幅広く貢献していきます。

事業の強み1 製造現場で徹底的に磨き上げてきた生産財

自動車部品生産ラインで磨き上げてきた高品質・高耐久な設備と、ロボットやセンサーなどコアなFA 機器を用いて、機器単体から工程・モジュール単位へと領域を広げながら、産業・社会の生産性向上に貢献します。

事業の強み2 70年以上にわたる高度モノづくりのノウハウ

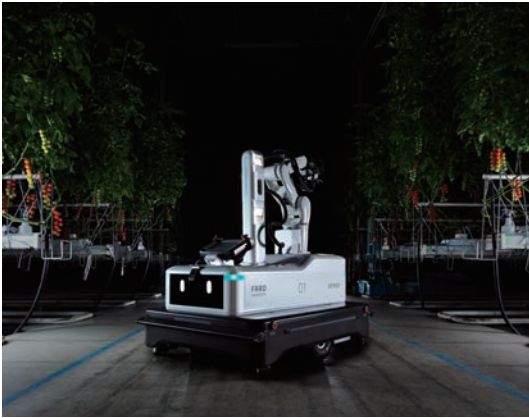
フレキシブルでムダのないモノづくりのノウハウと自動化技術（リーン・オートメーション）を用いて、労働力不足・カーボンニュートラル・DX といった製造業が直面する深刻な課題を解決します。

事業の強み3 デンソーが開発したQRコード®を用いた社会ソリューション

1994 年の特許申請・登録から 30 年を迎える QR コード®。長年の読み取り技術とコードに関する知見を活用し、外部のアイデアも取り入れながら、新たな領域・用途に向けた価値を創出します。



フードバリューチェーン



技術と発想で新たな価値を提供し、
すべての人が安心・安全に暮らせる社会に
貢献します。

人々の暮らしに欠かせない食において、パートナーと共にフードバリューチェーン全体を見据え、「いつでも・どこでも・誰でも・いつまでも」食の安心・安全を届けるソリューションを世界のあらゆる地域に提供していきます。

事業の強み1 担い手不足や気候変動に対し、安定的に栽培できる施設園芸ハウス

クルマで培ったモノづくり技術と農業生産との融合で、農作物を安定して栽培できる環境を空調技術で支えます。また、あらゆる人が働きやすい環境になるように自動化技術を導入し、生産性が高く、持続的に成長できる施設園芸ソリューションをグローバルに提供します。

事業の強み2 ドライバー不足や配送多様化に対応した、小型モバイル冷凍・冷蔵機

クルマで培った熱制御技術を活用し、従来の車載用冷凍機を小型軽量化。バッテリー駆動で持ち運び可能にした小型モバイル冷凍・冷蔵機で、一般ドライバーや乗用車による柔軟で多様な小口配送を実現。エンジンやドライアイスを使わずCO₂排出量を低減します。

事業の強み3 変化する食流通ニーズに呼应した、新たな流通DXソリューション

製造現場で培ったQRコード®・RFID 技術を活用した多様な食品情報のデジタル化で、消費者の安心・安全ニーズに応え、生産から販売までの食流通情報の見える化、および、流通の需給最適化や在庫適正化につながる一気通貫の食流通プラットフォームを提供します。



新たな価値を生む基盤

強固な事業基盤

デンソーの事業活動を支えるのは、これまで築き上げてきた強固な基盤であり、これは一朝一夕では模倣することができない当社の優位性です。グローバル約16万人の人財が持つ叡智と、お客様、サプライヤーなどのビジネスパートナーをはじめとする多様なステークホルダーとの関係は、すべての事業活動の原動力です。これらの深化と拡大によりさらなる成長を実現します。



価値創造を支える人財

デンソーで働く社員には、景気悪化の中で分離独立したその始まりから、厳しい環境下でも成すべきことを成し、社会に価値を提供する技術開発・モノづくりを実践するという不屈の精神が継承されています。未来のデンソーを牽引する人財の育成を続け、現在では、地域のニーズやトレンドを適時・的確に把握し、それを研究開発やモノづくりに活かすべく、世界各地で約16万人の社員が邁進しています。



盤石な財務資本構成

創業以来75年の事業活動の中で、多様なお客様と信頼関係を築き、ニーズに沿った技術を探求し、共に知見を深めてきました。そして、お客様のニーズを形にして安定してお届けできる供給基盤を築き上げてきました。チャレンジを後押しする盤石な財務基盤のもと、世界中で磨き上げた叡智を多様なビジネスパートナーの強みと掛け合わせることで、誰も見たことがない新たな価値の実現に取り組んでいます。



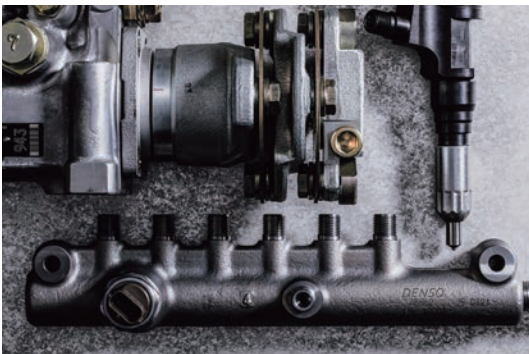
強靱な供給体制

お客様と密に情報共有しながら、QCD*の観点から推奨部品を選定し積極的に採用することで、生産終息（EOL）のリスクを低減するとともに、サプライヤーの持続的な供給力を高めます。また、長期動向を積極的に提示し、サプライヤー・お客様と密に情報共有しながらサプライヤーの生産終息要請に対する切り替えの検討を予兆段階から促進することで、サプライヤーと一体となった健全な取引環境構築に取り組みます。パートナーと共に社会から信頼される供給基盤を築き上げることで、安定供給と競争力向上を両立していきます。

*QCD：Quality（品質）・Cost（コスト）・Delivery（納期）。
製造業における生産管理の評価指標

先端研究開発

デンソーは、社会のニーズを的確に捉えることで、競争力のある製品を多数創出し、モビリティ社会の発展に貢献してきました。価値観の多様化や社会課題の複雑化が進む中、モビリティを起点としてより幅広い領域に貢献範囲を拡大させるべく、「環境・安心」の理念を軸に重点領域を定め、未来を見据えた技術企画や、研究開発体制の強化に取り組んでいます。今後も世界の研究機関や大学など、組織の枠を超えた社内外連携により、新たな価値を生み出していきます。



時流に先んじる創造へのこだわり

デンソーは「新しい価値の創造を通じて人々の幸福に貢献する」ことを基本理念として、社会の変化を鋭く捉え、“世界初”にこだわった製品開発を行ってきました。これまで世の中になかった“世界初”の製品を生み出した数は180を超え、今現在も、複雑な社会課題を解決する新たな技術・製品開発に執念を燃やしています。



グローバル開発体制

世界7極にテクニカルセンターを設置完了し、イスラエルやシリコンバレーなどイノベーションの震源地にもラボを構えて、多様化する地域のニーズをいち早く開発に取り込み、競争力の高い製品としてお客様に提供する体制を構築しました。産官学や事業パートナーとの連携によって、社会課題の解決につながる革新技術を創出しています。



世界最高水準の研究開発基盤

将来に向けて競争力を磨いていくべく、2023年度は5,509億円の研究開発費を投じました。AI活用を含めたDXによる効率化を推進しながら、今後も環境・安心の注力分野を中心に、研究開発を強化していきます。

三位一体のシステム提案力

デンソーは、お客様のニーズに応え価値ある製品・サービスを社会に提供すべく、時代に先駆けた事業ポートフォリオの最適化を進めてきました。創業から取り組んできたメカニクス領域に始まり、エレクトロニクス、ソフトウェアと領域を拡大させながらそれぞれの領域を磨き上げ、最適なバランスで組み合わせることで、コンポーネントの枠組みを超えた全体システムの最適解での提案ができます。これは、それぞれの領域だけで事業活動を行ってきた企業には会得することは難しい、総合メーカーであるデンソーならではの競争力です。



真のニーズを捉える

デンソーは、創業当初から携わってきたメカニクス領域のみならず、エレクトロニクス・ソフトウェア領域の技術開発にも50年以上取り組んできました。それぞれの領域の知見を融合し、お客様およびその先のエンドユーザーのニーズや将来構想をタイムリーかつ確に理解することができるため、車両開発の早い段階から参画・提案が可能で、時にはお客様の中に入り込んで共にクルマをつくり上げています。



組織の枠を超えたパートナー連携

メカニクス・エレクトロニクス・ソフトウェア領域のプロ人材は、研究機関や大学など、組織の枠を超えたパートナーシップを通じて世界各地で最先端技術を吸収し、それを製品に落とし込み、実際のクルマの使用環境下（気温・使われ方など）で製品評価・テストを徹底しています。国内外・産官学連携を進め、パートナー企業と共に自動車・電装部品・半導体の技術力と経験値を結集することで、世界に先駆けた技術研究集団として、競争力にさらに磨きをかけていきます。



ハード・ソフトの融合で構想を実現する力

メカニクス・エレクトロニクス・ソフトウェアの3領域を組み合わせることで、次世代インバーターや先進安全システムなどでモビリティ社会の発展に貢献してきました。様々な部品を手掛け、クルマの開発に必要とされる要件を熟知しているからこそ、メカニクス・エレクトロニクス・ソフトウェアを単体で提供している企業にはできない、クルマに実装した時に真にニーズに即した形でユーザーに届けられることができる技術・製品開発が可能です。

高効率・高品質なモノづくり

デンソーは、創業以来一貫して内製技術にこだわり、設備、生産ライン、素材、加工方法までも自社で設計・製造しています。このようなモノづくりへのこだわりにより、研究開発で構想した世界最先端技術を製品として形づくり、世の中に届けてきました。自前の生産技術によって、生産ラインの高速・高稼働化やコンパクトな設備の開発、物流・検査のスリム化などを図り、それらの知見をデジタル化し形式知として活用することで製品にさらなる競争力と付加価値をもたらしています。



世界をリードするモノづくり基盤

1,000分の1mmにこだわる微細な加工や、生産効率も品質も向上する組付けライン。最先端の生産・加工・計測技術や、それらを応用した生産ライン・システム開発が、世界最高レベルの製品性能と品質を生み出しています。



モノづくりのカーボンニュートラルへの取り組み

世界約130の工場をネットワークでつなぎ、生産現場の人・モノ・設備から得られる多くのデータを分析することで、競争力が飛躍的に向上しています。設備不具合の予兆をいち早く捉えて対処したり、個別拠点の熟練者のノウハウを形式知化してグローバルに活用したり、データドリブンな省エネ活動で生産性を高めたり、モノづくり基盤のさらなる強化を図っています。2035年にはモノづくりにおけるカーボンニュートラルの実現を目指し、デンソーだけでなくサプライチェーン全体に展開して産業全体の環境負荷低減をリードします。



高度モノづくり人財

デンソーの最先端モノづくりは、高度モノづくり人財により支えられています。「モノづくりを支えるのは“ヒトづくり”」という考えに基づき、技術と技能の両輪を強化すべく設立した技能養成所「デンソー工業学園」は、2024年で70周年を迎えました。技能五輪の国際大会でも金メダルを獲得するなど、グローバルに通用する突き抜けた技能を養成しています。

サステナビリティ経営

社是の「最善の品質とサービスを以て社会に奉仕す」という言葉は、事業を通じて社会の課題解決に挑み、人々の幸福に貢献する、というデンソーのサステナビリティ経営そのものを表しています。そして社是に込められた先人たちの想いを継承・実践し、次世代に襷をつなげていくことは今日のデンソーの使命です。



受け継がれるサステナビリティ経営

社是にも刻まれている「最善の品質とサービスを以て社会に奉仕す」の精神を原点として、デンソーは創業当時から事業を通じて社会課題解決への挑戦、つまり、サステナビリティ経営を実践し、環境・安心を軸として社会に新たな価値を提供し続けてきました。時代が変わってもこの社是の精神を受け継ぎ、サステナビリティ経営を実践していくため、「デンソーグループサステナビリティ方針」を定めるとともに、社会課題を当社の2030年長期方針、優先取組課題に落とし込み、事業活動を通じてその解決に取り組んでいます。

サステナビリティ経営の推進体制

経営戦略本部を担当する役員を統括責任者として、経営戦略本部が全社のサステナビリティ経営推進機能を担っており、方針や活動計画の立案、各部門の活動支援・フォローアップ、社内外コミュニケーションなどを行っています。サステナビリティ経営の方向付けや全社活動状況のフォローアップなどは、取締役会監督のもと、会社の公式会議体で審議・報告を行っています。また、個別のサステナビリティテーマについては、主管部門が各専門委員会では審議を受け、関係部門と連携して活動を推進しています。

事業の概況

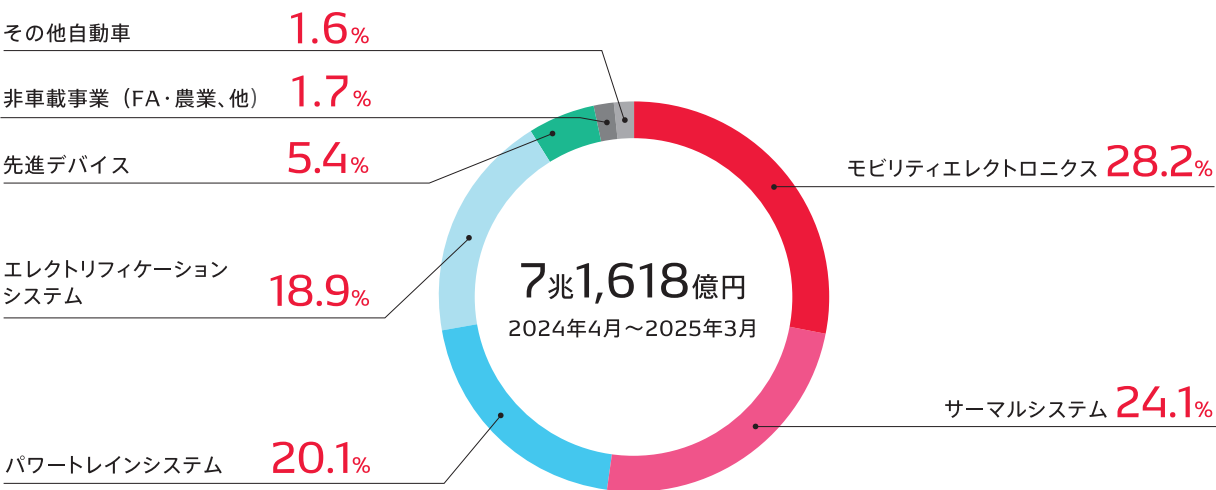
社名	株式会社デンソー
設立	1949 年 12 月 16 日
本社所在地	〒 448-8661 愛知県刈谷市昭和町 1-1
資本金	1,875 億円
売上収益 ^{*1}	連結：7 兆 1,618 億円
営業利益	連結：5,190 億円
当期利益 ^{*2}	連結：4,191 億円
従業員数 ^{*3}	連結：158,056 人 単独：43,781 人
連結子会社数	187社 (日本 54、北米 22、欧州 36、アジア 70、その他 5)
持分法適用関連会社数	37社 (日本 17、北米 3、欧州 3、アジア 12、その他 2)
事業年度	4 月 1 日から翌年 3 月 31 日まで

*1. 外部顧客に対するものです
*2. 親会社の所有者に帰属
*3. 就業人員（連結会社への出向者を除き、連結会社からの出向者を含む）であり、臨時雇用者数は含んでいません

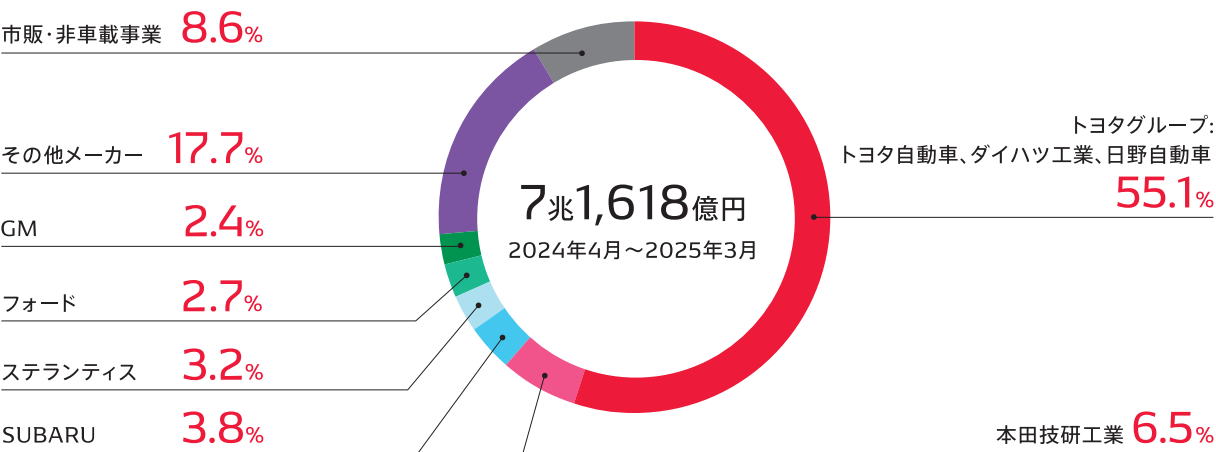
本社・工場・研究所	従業員数	主な事業内容
本社	12,321	-
安城製作所	4,982	スターター、オルタネーター、インバーター、モータージェネレーター、 パワーステアリングモーターの製造
西尾製作所	6,059	カーエアコン、ラジエーター、 電子制御式ディーゼル・ガソリン燃料噴射装置の製造
高棚製作所	2,710	メーター、ディスプレイ、ミリ波レーダー、画像センサー、 パワーモジュール、各種センサーの製造
湖西製作所	3,310	ワイパーシステム、 パワーウインドウモーターなどの自動車用小型モーターの製造
大安製作所	4,322	点火系製品、先進安全関係製品、動弁系製品、駆動系製品、 吸排気系製品の製造
幸田製作所	3,429	半導体ウエハー、IC、電子制御製品の製造
豊橋製作所	972	カーエアコン、ヒートポンプモジュール、サーボモーターモジュール、 自然冷媒CO ₂ 家庭用ヒートポンプ給湯機の製造
広瀬製作所	1,104	インバーター、ECU、パワー半導体の製造
阿久比製作所	813	生産設備の製造
豊橋東製作所	677	ブロワーモーター、 クーリングファンモーターなど自動車用小型モーターの製造
善明製作所	1,313	電子制御式ディーゼル・ガソリン燃料噴射装置の製造
先端技術研究所	278	先端機能材料、AI、人間工学などの研究
Global R&D Tokyo, Haneda	189	自動運転分野の研究開発・実証
額田テストセンター	27	実車走行試験

財務データ

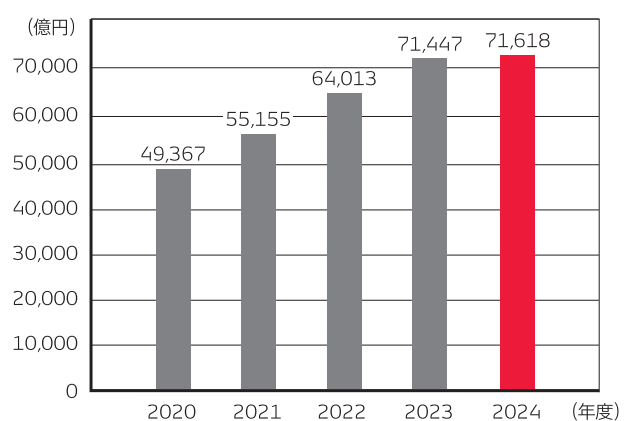
製品別売上収益



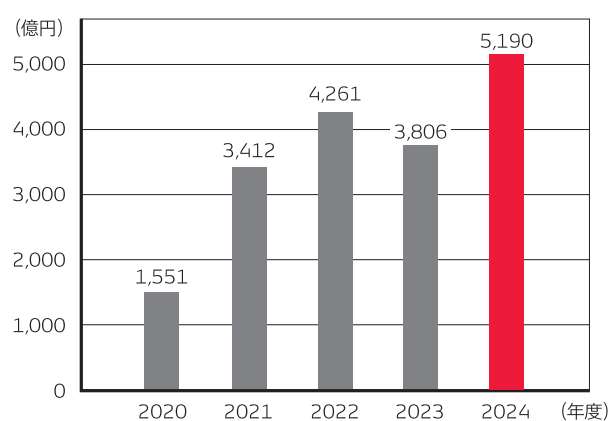
得意先別売上収益



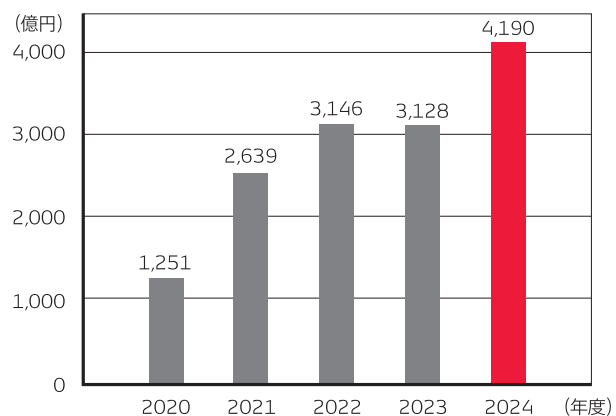
売上収益



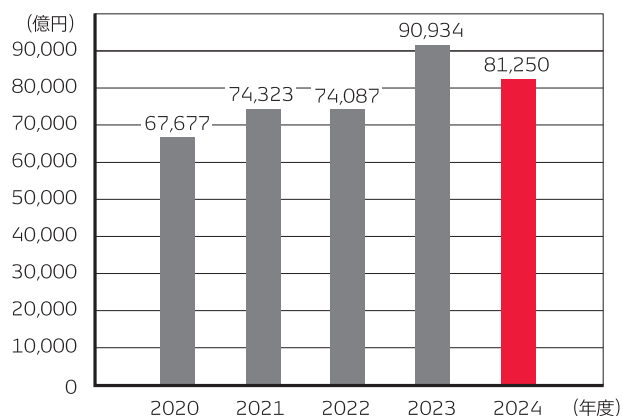
営業利益

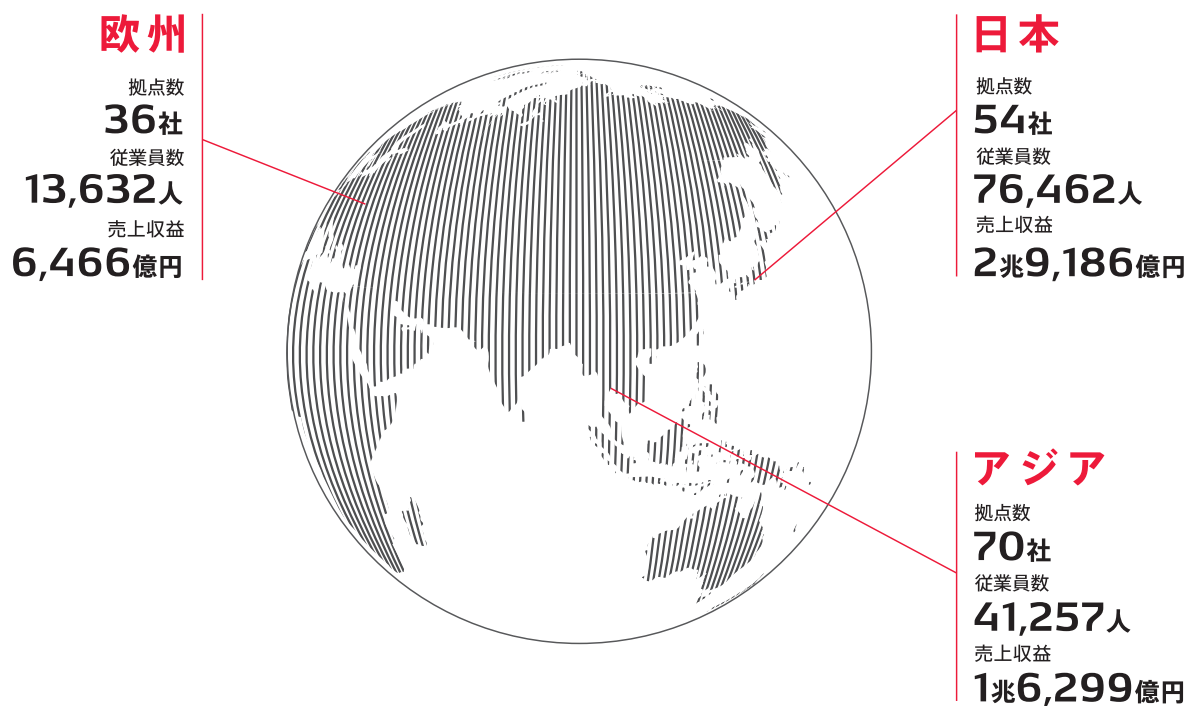


当期利益



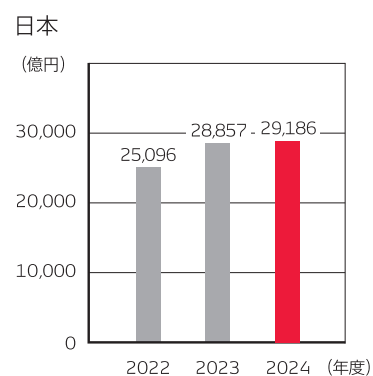
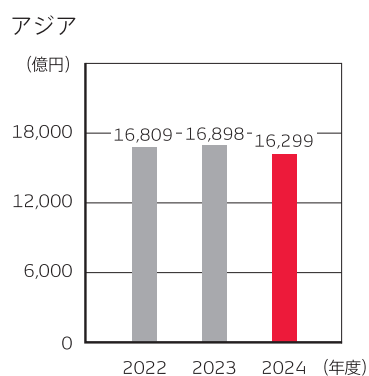
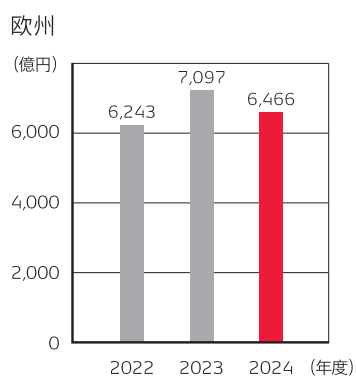
資産合計





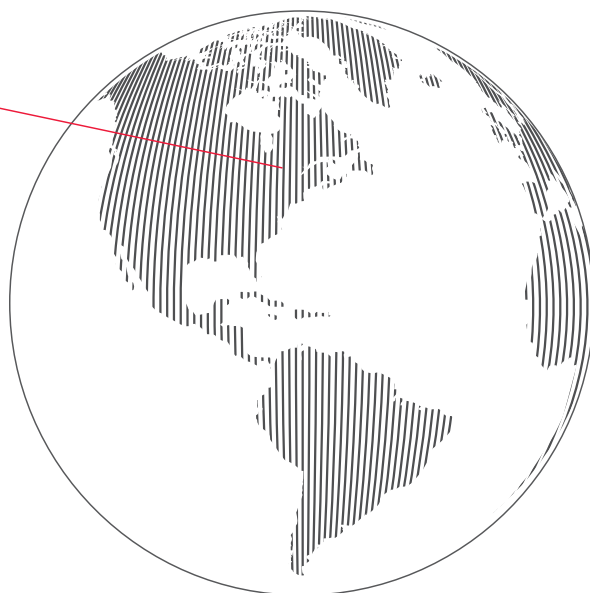
地域別売上収益*

*売上収益は外部顧客に対するものです。



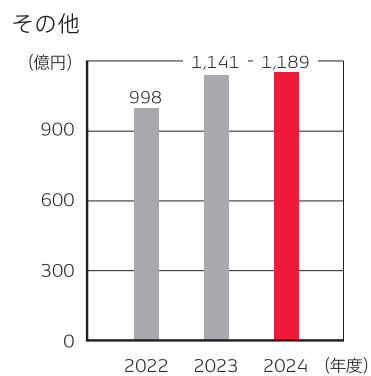
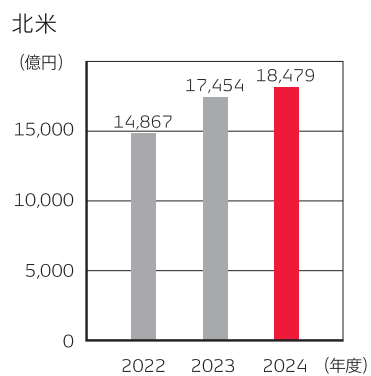
北米

拠点数
22社
従業員数
23,553人
売上収益
1兆8,479億円



その他

拠点数
5社
従業員数
3,152人
売上収益
1,189億円



株式会社デンソー

〒448-8661 愛知県刈谷市昭和町1-1
Tel 0566-25-5511 (案内)
<https://www.denso.com/jp/ja/>
<https://www.denso.com/global/en/>

日本サイト



グローバル
サイト



統合報告書



公式
Facebook



公式
Instagram



地域統括会社

北米

DENSO INTERNATIONAL AMERICA, INC.

24777 Denso Drive, Southfield Michigan
48033 U.S.A.
Tel +1-248-350-7500
<https://www.denso.com/us-ca/en/>

アジア

DENSO INTERNATIONAL ASIA CO., LTD.

888 Moo 1 Bangna-Trad Rd. KM.27.5, T.Bangbo,
A Bangbo, Samutprakarn 10560 Thailand
Tel +66-2-315-9500
<https://www.denso.com/th/en/>

DENSO INTERNATIONAL ASIA PTE., LTD.

51 Science Park Road, #01-19 The Aries,
Science Park II, 117586, Singapore
Tel +65-67768268
<https://www.denso.com/sg/en/>

インド

DENSO INTERNATIONAL INDIA PVT. LTD.

Plot No.3, Sector-3, IMT Manesar, Gurgaon,
Haryana-122052, India
Tel +91-124-4803200
<https://www.denso.com/in/en/>

欧州

DENSO INTERNATIONAL EUROPE B.V.

World Trade Center, Tower I, 4th Floor Strawinskylaan 1865,
1077 XX, Amsterdam, The Netherlands
Tel +31-294-493493
<https://www.denso.com/nl/en/>

中国

DENSO (CHINA) INVESTMENT CO., LTD.

Room No. 518, The Beijing Fortune Building,
No. 5 Dong San Huan Bei Lu,
Chaoyang District, Beijing, 100004, China
Tel +86-10-6590-8337
<https://www.denso.com/cn/zh/>

デンソーは、世界共通目標であるSDGsの達成に取り組んでいます。

